ボーリング柱状図

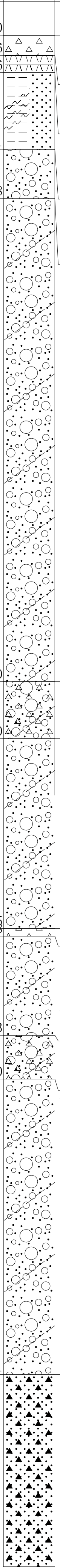
調査名　平成16年度標準断層帯調査業務委託

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリングNo. 2

シートNo. 1

ボーリング名	S04-Ko-2	**調査位置**	標津郡標津町字西古多糠				**北緯**	43° 47’ 13.4″
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			**調査期間**	平成 16年 10月 10日 ～ 16年 10月 23日		**東経**	144° 58’ 28.2″
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	**主任技師**	田邉　謹也	**現場代理人**	越谷　賢	**コア鑑定者** 林 健太郎・越谷 賢	**ボーリング責任者**	菊池　末吉
孔口標高	148.96m	**角度** 180° 上 90° 下 0° 0°	**方向** 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配** 水平 0° 鉛直 90° 0°	**使用機種**	**試錐機** 利根TDC-21	**ハンマー落下用具**	トンビ
総掘進長	55.00m					**エンジン** ヤンマーNFD-12	**ポンプ**	



標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
	148.36	0.60	0.60		耕作土	黒褐			有機質シルト。全体に橙色軽石が点在する。														
	148.00 147.70	0.36 0.30	0.96 1.26		軽石	黄褐 灰～褐橙			亜円。級化構造発達。(Ma-1)														
	146.35	1.35	2.61		ローム質粘性土	黄灰			軽石・スコリア(径1mm以下)が散在する。														
	145.48	0.87	3.48		火山灰質シルト・砂互層	褐灰～灰褐			シルトには葉理（10～30° 傾斜）があり、砂は級化する。														
					砂礫	暗灰～黄褐灰			亜円～扁平礫(平均径5～20mm・最大径60mm)が主体。礫種は安山岩が主体。基質は火山灰混じり細粒砂。														
	136.96	8.52	12.00		シルト混り砂礫	黄灰			扁平～亜円礫(径1～40mm)主体で、所々切長10～30cmの玉石が混じる。礫種は安山岩・凝灰岩が主体。扁平礫の多くはほぼ水平な配列をしている。基質はローム質粘性土。 8.00～9.00m:安山岩の腐り礫が点在する。 11.00m以深:流紋岩の大礫を含む。														10/10
	135.96	1.00	13.00		軽石・シルト混り砂礫	黄褐			礫径や礫形態は上位と同様。基質に橙色軽石を多含する。 12.50m付近:閃緑岩礫を含む。														
	132.61	3.35	16.35		シルト混り砂礫	黄灰			径5～15mmの礫は亜円～扁平が主体で、比較的大きい径(20～50mm)の礫は亜円～亜角礫が主体である。礫種は安山岩・凝灰岩が多いが、13.00～14.00mは流紋岩・玄武岩・閃緑岩・礫岩の礫を含み礫種が多様。基質はローム質粘性土。	10/11 14.70													10/11
	132.48	0.13	16.48		軽石	黄褐			中粒の橙色軽石が濃集する。														
	130.73	1.75	18.23		シルト混り砂礫	黄灰			扁平～亜円礫(平均径10～20mm・最大径50mm程度)が主体である。扁平礫の多くはほぼ水平な定向配列を示す。礫種は安山岩・凝灰岩が主体。 基質はローム質粘性土である。														
	129.96	0.77	19.00		軽石・シルト混り砂礫	黄褐			安山岩の短棒状コアが多く、稀に粗粒玄武岩礫を含む。基質に橙色軽石を多含する。														
	124.75	5.21	24.21		シルト混り砂礫	黄灰			安山岩礫が主体。下部に向かい径50mm以上の礫の含有率が増加。 基質はローム質の粘性土。 21.78m:特徴的な赤色礫（鉄石英）を含む。														10/12
					スコリア質中～	黒褐			淘汰良好。26.53～26.91mは、細粒で固結度が高く、境界面は28° で傾斜する。 新鮮な繊維状の軽石や淡緑色凝灰岩の亜円礫（φ2～8 mm ）を含む。														10/13

27 28 29	119.63	5.12	29.33	質中～細粒砂	黒褐	傾斜する。 新鮮な繊維状の軽石や淡緑色凝灰岩の亜円礫（φ2～8 mm ）を含む。	28.25 04-Ko-2-28.25 28.25 29.23 S04-Ko-2-29.23 29.26	火山灰分析	
30	118.86	0.77	30.10	細～粗粒砂	暗灰	石英粒主体で、一部スコリア・軽石・安山岩円礫を含む。10cm単位で級化を繰り返す。			10/14
31	117.96	0.90	31.00	スコリア質砂	黒褐	中粒砂。下部は亜円礫(径5～10mm)が散在する。30.38～30.41m:粗粒なスコリアが挟在。境界面の傾斜は30°。			
	117.38	0.58	31.58	細～粗粒砂	暗灰	石英粒主体。級化相が2サイクル認められる。下部は橙色軽石が散在。			
32 33 34	114.71	2.67	34.25	火山灰質砂・砂互層	暗褐灰～暗灰	火山灰質砂は石英粒とスコリア質砂が混在し、新鮮な軽石(径2～10mm)を多含する。砂は石英粒主体で、級化が明瞭である。			
35	113.86	0.85	35.10	軽石質砂	淡灰～淡橙	中粒～粗粒砂。一部、安山岩角礫(径30mm)・橙色軽石を含む。下位層との境界面は明瞭で、25°傾斜を示す。			
	113.32	0.54	35.64	固結砂質シルト	黄灰～黄褐	肌色火山灰が発達する。葉理面の傾斜は25～30°，層理面の傾斜は10°。固結度は高い。			10/15
36 37 38 39	109.72	3.60	39.24	シルト混り砂礫	黄灰～黄褐	扁平～亜円礫(30～60mm)が主体。礫種は安山岩・凝灰岩が多く、流紋岩・玄武岩・閃緑岩を少量含む。基質はローム質粘性土。 38.81m以深:玄武岩礫が目立つ。			
	109.42	0.30	39.54	細～中粒砂・シルト互層	黄灰	10～20mm単位で互層し、層理面は10°程で傾斜。砂は上方細粒化する。			10/16
40 41 42 43 44 45 46 47 48	100.47	8.95	48.49	シルト混り砂礫	黄灰～黄褐	全体に硬質緻密な安山岩の短棒状～棒状コアが多い。扁平礫は定向配列をなす傾向が認められ、全体に30°程傾斜している（インブリケーション？）。40.75 m 付近にはピンクの風化安山岩質凝灰岩礫が目立つ。基質はローム質粘性土である。			10/20
49	100.03	0.44	48.93	固結シルト	暗黄褐	細亜円礫(径2～5mm)が薄層状に挟在。葉理面は10°程で傾斜する。			
50 51	97.93	2.10	51.03	シルト混り砂礫	黄灰～黄褐	全体に安山岩の長棒状コアと腐り礫を特徴的に含む。基質はローム質粘性土。			10/21
	97.64	0.29	51.32	礫混じりシルト	暗黄褐	安山岩・凝灰岩の亜角礫(径2～15mm)が散在する。			
52 53 54 55	93.96	3.68	55.00	シルト混り砂礫	黄灰～黄褐	径5～20mmの亜円礫が主体で、所々切長50～100mmの礫が混在する。礫種は安山岩・凝灰岩が主体で腐り礫が目立つ。 基質はローム質粘性土。			10/22 10/23